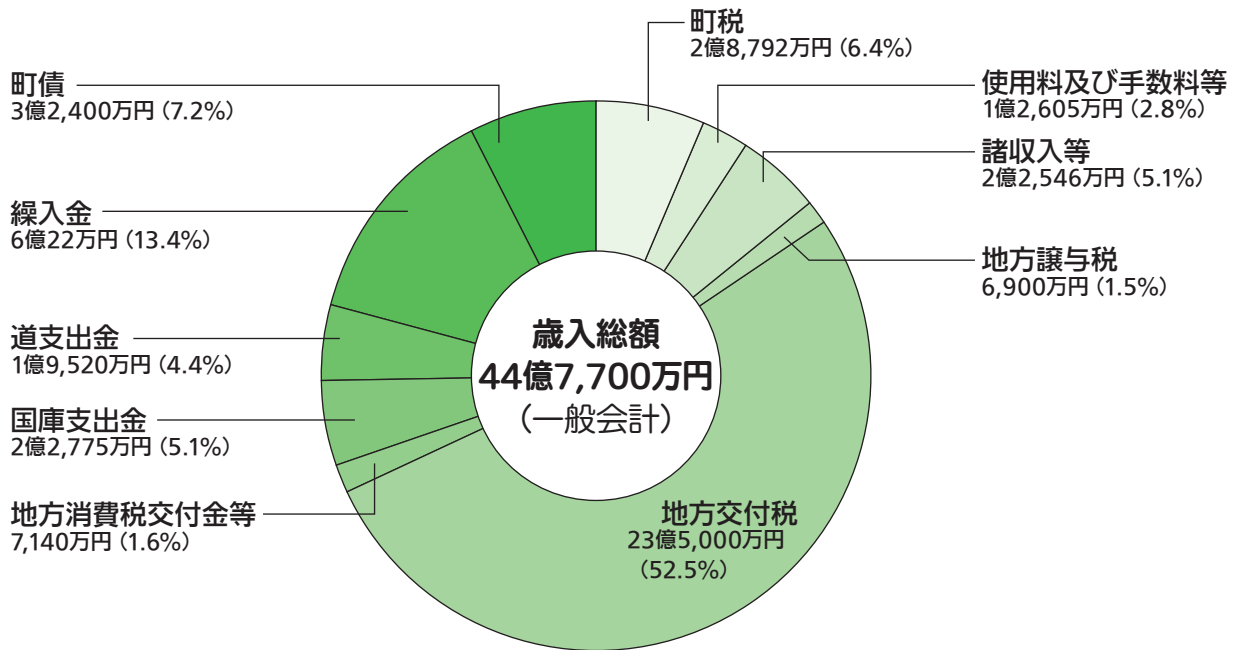


平成31年度 まちのお金の使いみち

本年度の予算の概要と事業についてお知らせします。



町民誰もが安心・安全に暮らせるまちづくり

現在、本町の財政状況は、財政の健全化を示す「実質公債費比率（H29～6.6%）」や「将来負担比率（H29～なし）」から判断すると、健全性が維持されていると言えます。しかし、急速に進む人口減少や地方における景気低迷により、近年は町税が減少傾向であり、自主財源の乏しい本町にとっては、財源確保はますます厳しい状況にあります。

一方で、住民ニーズの多様化や高齢化に伴う物件費や扶助費、公共施設の老朽化による維持管理経費などは増加傾向にあります。橋梁長寿命化事業や町営住宅改修など町民生活に直結したインフラ整備の計画的な改修も必要です。

このため、本町の厳しい財政事情を認識した上で、長期的な視点による持続可能な財政運営を基本に据え、歳入予算をベースに徹底した経常経費の歳出抑制や優先度・緊急度の高い事業の選択を念頭に予算編成に努めました。

平成31年度は、「第5次置戸町総合計画」後期計画の最終年度となり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」5ヶ年計画の5年目を迎えます。総合計画の将来像「自然を愛し、人にやさしいまち」の実現のため、町民の誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりに努め、「第6次置戸町総合計画」に引き継いでいきます。

一般会計は44億7,700万円を計上し、前年度当初予算と比較し、1億6,500万円、3.6%減の予算となりました。特別会計の中で、簡易水道特別会計は、簡易水道の再編推進事業が8年計画最終年を迎え、送水ポンプ及び給水支線布設工事（北光・愛の沢、春日、常元の一部）などの整備を実施します。また、介護サービス特別会計では、特別養護老人ホームの特殊浴槽（機械浴）の更新整備を行います。その他の特別会計では、ほぼ前年並みになり、一般会計と6特別会計を合わせた新年度予算の総額は、前年度当初予算比2.1%減の59億9,420万円となりました。